

「連携？協働？共創？地域固有の価値をつくる ミュージアムの取り組み」

藤江 亮介（乃村工芸社 公民連携プロジェクト開発2部）

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定とモニタリング

③ 具体的取り組みとその位置づけ

① 今回のお題の整理

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

• ○○連携

地域連携

学校連携、博学連携、大学連携

市民連携（市民協働）

MLA連携、MALUI連携

企業連携

関係機関連携

…など

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

- 連携？ 協働？ 共創？
- COOPERATION?
COLLABORATION?
CO-CREATION?

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

- なぜ「連携、協働、共創」が求められるのか？

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と モニタリング

③ 具体的取り組みとその 位置づけ

- 「市民のなかの博物館」
伊藤寿朗 著(1993年)

- 第三世代の博物館

参加志向、社会的要請に応え、より開かれた事業を展開し、新たな価値創出を目指す

- 地域博物館

例えば…市民協働による調査研究

→各地の博物館に組みの実例が数多くある
(特に自然史系など)

② 中長期計画の策定とモニタリング
(多摩六都科学館を事例に)

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

多摩六都科学館

- 小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市の5市が設置
- 年間約25万人が来館

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

第2次基本計画(2014~2023年)

- 市民を巻き込んだ策定プロセス
- この中長期計画で、“地域づくり”という新たなミッションが示される

Phase 1	Phase 2	Phase 3
平成6年3月開館～平成15年度	平成16年度～平成25年度 第1次基本計画	平成26年度～平成35年度 第2次基本計画
科学館事業 (中核事業)	導入期	成長期
		成熟期

科学館事業 (中核事業)

広域行政圏の拠点施設としてスタート

- 平成2年1月「(仮称) 子供科学博物館基本構想書」

生涯学習・文化の振興が主目的

- 設置目的：次代を担う子どもたちの夢を育み、科学する心を養うとともに、各世代にわたる生涯学習の推進を図り、文化の振興に寄与するため、多摩六都科学館を設置する

開館時のうれしい悲鳴

- 平成6年(1994年)3月1日 多摩六都科学館開館
- 売り物のプラネタリウムは、世界一の大きさのドームと最新式の投影機・70ミリ全天周映像による番組構成
- 3月だけで3万人が来館、平成6年度16万8千人の利用者
- 北多摩の目玉となる施設になる

急激な利用者減

- 次年度は12万5千人、以降急激に落ち込んで、5年目には10万人を切る瀬戸際に
- スタッフの努力がなかなか評価や成果に結びつかない時期

7年度目の改革

- もう一度来てみたくなる科学館をめざし、常設展示を入れ替え、プラネタリウムのオリジナル番組を開発。ボランティア制度にも取り組む
- リピーターの獲得、市民参画のしくみづくりが功を奏し、7年目以降は徐々に利用者も増加

基本計画や財政計画を策定

- いち早く事業評価制度を取り入れて運営改善を実施
- 専門性と運営の効率性を同時に高めていくことをめざす

基本理念 (今後も継承される科学館事業の理念)

- ①科学と人間の調和を目指す
- ②文化としての科学を追求する
- ③専門性とエンジョイメントの両立を図る (*)
- ④地域コミュニティの生涯学習拠点とする
- ⑤徹底した利用者中心を追求する

組合構成市の財政難・ハードの更新時期

- 事業経費が大幅に削減され、更なる変革を推進
- 開館から15年が経過し、プラネタリウム機器を更新する必要が高まる
- 常設展示の在り方の検討をはじめ

ソフト・ハードの大転換

- 管理運営者を直営から指定管理者にするプランと併せて運営形態の大改革を果たす
- 平成24年に導入した新しいプラネタリウムの「ケイロンⅡ」は、最新の技術の粋を集め、「最も先進的なプラネタリウム」として世界に認定され内外の注目を集める
- 常設展示は、「ラボ」を起点とするコミュニケーションの場に舵を切り、リニューアル事業は大きな成果をあげた

(*プログラムの開発実施時の基本理念)

科学館の役割が変わりつつある

- 東日本大震災や原子力発電所の事故を経験し、科学や科学技術とどう向き合っていくかが問われる今、科学館の役割が変わりつつある
- 専門家と市民の橋渡しをするだけでは済まなくなり、市民の科学リテラシー(生活者として科学や先端技術を理解・評価し利用できる力)を育む場が求められている

多摩六都科学館が次にめざすこと

- 多摩六都圏域の人々や資源をつなぎ、身近な地域の価値に目を向け、多様な学びの場を創造すること
- 地域への誇りと愛着を生み出す体験の場をつくりだすこと
- 従来の科学館事業を基礎として、価値・ソフト・コンテンツ・ひと・地域を、市民とともに作りあげていく場となること
- ソーシャル・インクルージョン*2**に基づき、誰もが楽しみ、交流できる場をつくりあげること
- 自分の科学館・地域の科学館として市民から愛されること

今後も成長発展するためにマーケティング戦略の転換のとき

- ライフサイクルの成熟期を迎えた施設として、マーケティング戦略の大幅な見直しを図る時期に来ている。ターゲットの多様性の担保が必須
- 利用者の科学館体験を総合的に高めていくことをめざし、情報発信・プログラムへの申込み方法、参加体験の各プロセスに対するきめ細やかなフォロー等の改善に継続的に取り組んでいくことが必要

地域拠点事業

多摩六都科学館が次にめざすこと

- 多摩六都圏域の人々や資源をつなぎ、身近な地域の価値に目を向け、多様な学びの場を創造すること
- 地域への誇りと愛着を生み出す体験の場をつくりだすこと
- 従来の科学館事業を基礎として、価値・ソフト・コンテンツ・ひと・地域を、市民とともに作りあげていく場となること
- ソーシャル・インクルージョン*2に基づき、誰もが楽しみ、交流できる場をつくりあげること
- 自分の科学館・地域の科学館として市民から愛されること

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

- 独自の事業評価システムを確立
- 市民モニター制度の導入
→モニタリングや評価のプロセスにも
市民に関わってもらうための仕組み

③ 具体的取り組みとその位置づけ
(多摩六都科学館を事例に)

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

年次計画や報告の中での位置づけ

- 事業項目として“〇〇連携”という項目を並列に置かず、関連図としてまとめる

		地域拠点事業
		※ボランティア会との協働は全ての項目に関連
科学館事業 (中核事業)	(1) 調査研究・収集保存活動	柳瀬川、西原自然公園での市民団体との協働 櫻井コレクションなど標本の整理 明治薬科大学・圏域社会福祉協議会と連携した 高齢者を対象とした調査研究
	(2) 展示活動	常設展、企画展における企業等との連携 東京の自然史、相澤ロボットなど
	(3) 天文映像活動	協定連携先・圏域との連携 協力事業の企画実施、コンテンツ提供など
	(4) 参加体験型学習活動	落合川などにおける自然観察会実施 多摩北部広域子ども体験塾など
	(5) 学校団体を対象とした学習支援活動	モデル事例構築（西東京市立本町小学校など） 教員とのコミュニケーション強化
	(6) 人材育成・研修活動	東京学芸大学と共催する教員セミナー実施
	(7) 研究機関・関連団体との連携活動	東大生態調和農学機構との連携 東京都三多摩公立博物館協議会などへの参画 圏域農家と連携したプログラムの実施 各市・NPO等と連携した在住外国人向け事業の開発

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

組織編成のなかでの工夫

- ○○連携担当という役職をあえてつからない
- それぞれが担当業務のなかでパートナーシップを構築していく

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

• パートナーシップの例



① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

ボランティア会

- 約130名が所属する任意団体
- 来館者とのコミュニケーションをはじめ、催しの企画・運営などの幅広い活動

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

研究機関

- KEK、国立天文台、NICT、極地研、ISASなど首都圏にある研究機関と協定を締結
- 研究内容を社会に対して示していくためのチャンネル

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

市民グループ

- 東大農場演習林の存続を願う会
- 川づくり清瀬の会
- 東久留米川クラブ
- …など

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

地元企業

- 西武鉄道
→ 企画展やプラネ番組でのコンテンツ
提供
- グローブライド
→ 釣りを通じた水辺の自然観察会

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

地域メディア

- 週に一度のコミュニティFM番組
(2年間で約100人のゲスト)

→館内のカフェ事業者の誘致

→プラネ番組「全天88星座 ~光が語る
天球の地図~」

広域行政圏という特色

- たまろくと市民感謝デー、圏域市民ウィーク
→産業振興にも寄与
- 圏域内の郷土博物館や郷土資料室の資料を集めて展示
→広域の文化行政の課題も

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

多文化共生プロジェクト

- 文化庁「地域と協働した博物館創造活動支援事業」として、2019年から取り組みがスタート

④ まとめ

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

④ まとめ

• 高柳雄一館長の言葉

「地域から世界を観る科学の視点と
科学が発見した世界から地域を観る
視点を交える」

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

④ まとめ

連携（依頼に応じ協力）

協働（目的・目標が重なる）

共創（共に価値をつくりだす）

① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

④ まとめ

- 共につくるパートナーが増える
→ 学びの場の魅力
→ コンテンツの訴求力や満足度
- 認知度の高まり、集客基盤の拡大
→ 年間の来館者数が3年で5万人増
※この間リニューアル等を行われていない

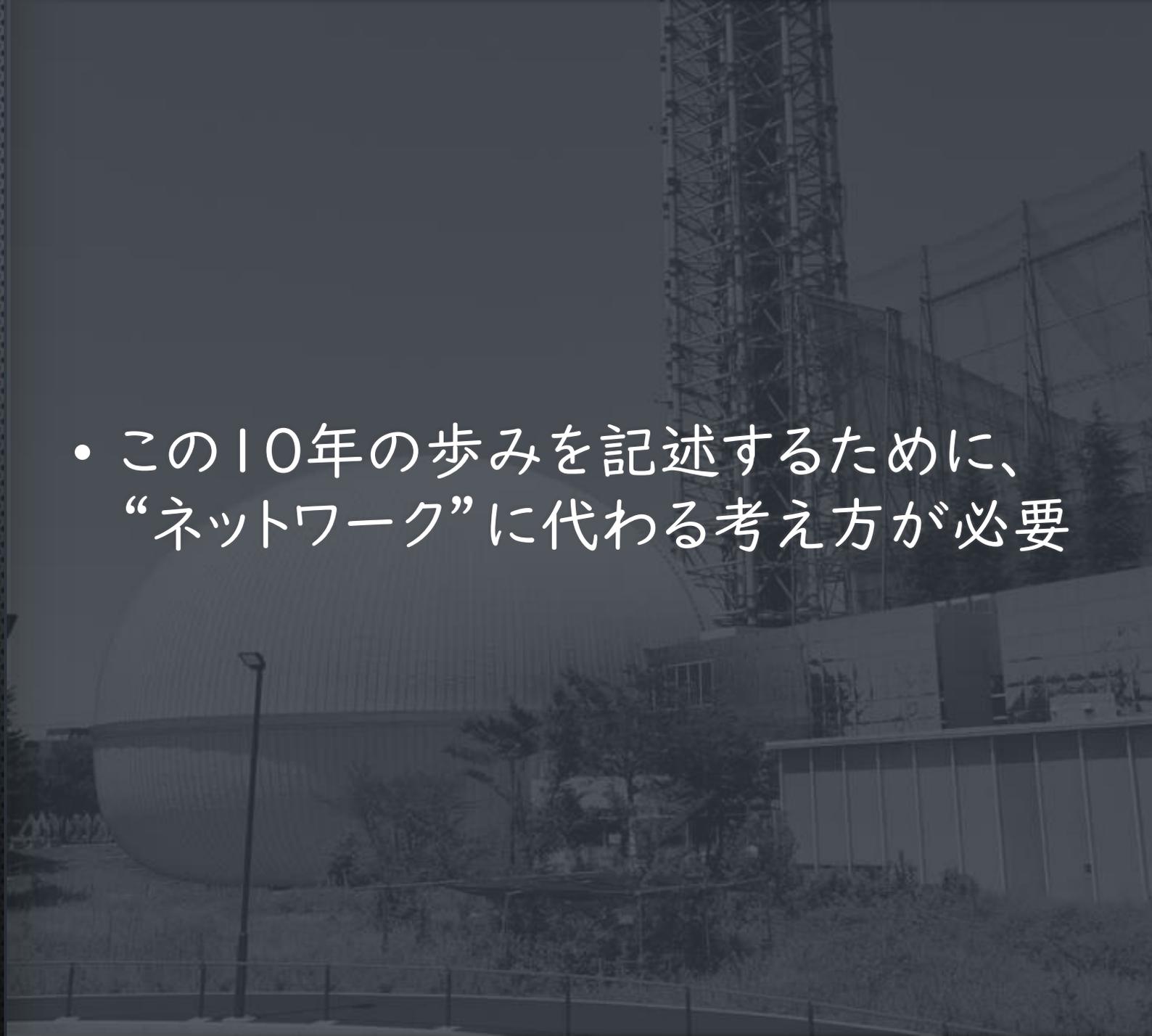
① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

④ まとめ

- この10年の歩みを記述するために、“ネットワーク”に代わる考え方が必要

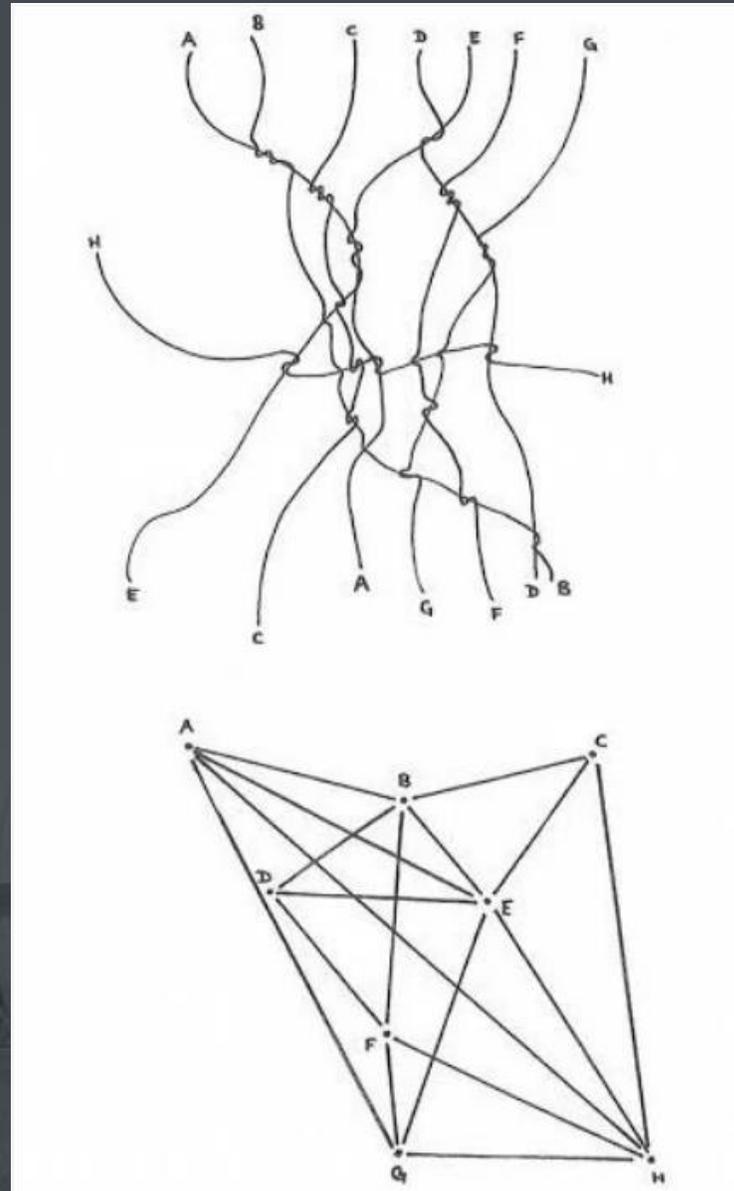


① 今回のお題の整理

② 中長期計画の策定と
モニタリング

③ 具体的取り組みとその
位置づけ

④ まとめ



ネットワークは点（ノード）と点を結節して
いく概念であるのに対し、

メッシュワークは線が絡まりあい、それ
が結び目を作りつつのびていく概念